

こんにちは婦人会「さくら」です

心を和ませてくれた桜の季節も終わり、新緑の季節がやってきました。今まで茶色の枝ばかりが目立っていた山々が、新緑の衣をまとい始めていました。深い緑、黄緑、透けるような白っぽい緑、ほんの少し残っている山桜のピンク、春一瞬の新緑の美しさ。「山笑う」とはこういう風景のことでしょうか。「春山淡冶而如笑しゅんさんたんや（春山淡冶にして笑ふがごとし）」北宋の画家で郭熙かくきの漢詩ですが、今月の文章を書くのに、編集人はちょっと勉強をしました。

～婦人会・暮らしのエッセンス～

4月と言えばやっぱり桜。京都にある千本釈迦堂
こと大報恩寺は、応仁の乱の激しいところであった

が、奇跡的に残った京都市街地で最古の木造建築のこのお寺に、阿亀桜おかめさくらと名のついた桜の木があるそうです。その昔、大工の棟梁が本堂造営の際、柱の寸法を誤って切ってしまった。そのことを知った妻のおかめが枡組を用いたらどうかと提案し、棟梁は無事本堂を竣工させることが出来ました。しかし、妻が助言したことが世間に知れては夫の恥と上棟式の前日におかめは自害してしまいました。棟梁は妻の思いやりに感謝し、



上棟式の御幣におかめの面を飾ったそうです。その後、人々はおかめを憐れんで供養塔を本堂の前に建てたとのこと。たおやかなしだれ桜の1本木の姿がおかめさんの姿と重なったのかもしれませんがね。（インターネットより引用）

阿亀桜にまつわる物語でした。

桜台婦人会「さくら」
平成24年4月21日
第123号

